

香川大学農学部
総合型選抜 I ガイド 2024



Hot でもいい

Cool でもいい

コシ のある人 探してます

受験を考えている人

必見



総合型選抜Ⅰとは？

総合型選抜とは、AO入試（アドミッション・オフィス入試）の新名称です。
香川大学農学部では、大学入学共通テストを課さない総合型選抜Ⅰを実施しており、第1次選抜（書類選考）と第2次選抜（授業理解力テスト、面接）により、アドミッションポリシーに合致した優秀な人材を選抜しています。

総合型選抜Ⅰは、1校あたりの出願人数に制限はありません（既卒者も出願可）。また、学校長の推薦を必要としないので、入学希望者の意欲や個性を大切に、自らの意志でエントリーできる入試です。

＜ポイント＞

- ★大学入学共通テストは課しません
- ★1校あたりの出願人数に制限はありません
- ★学校長による推薦書は必要ありません
- ★募集人員は「30人」です

下の表にある通り、香川大学農学部では、定員150人のうち25人を総合型選抜Ⅰに割り当ててきました。近隣の国立大学と比較して、総合型選抜Ⅰの募集人員が多いのが特徴でしたが、これには理由があります。農学部教員に対してアンケートを行ったところ、総合型選抜Ⅰ（前身のAO入試、推薦入試を含む）での入学者には、優秀な学生*が多いとの結果が出ています。

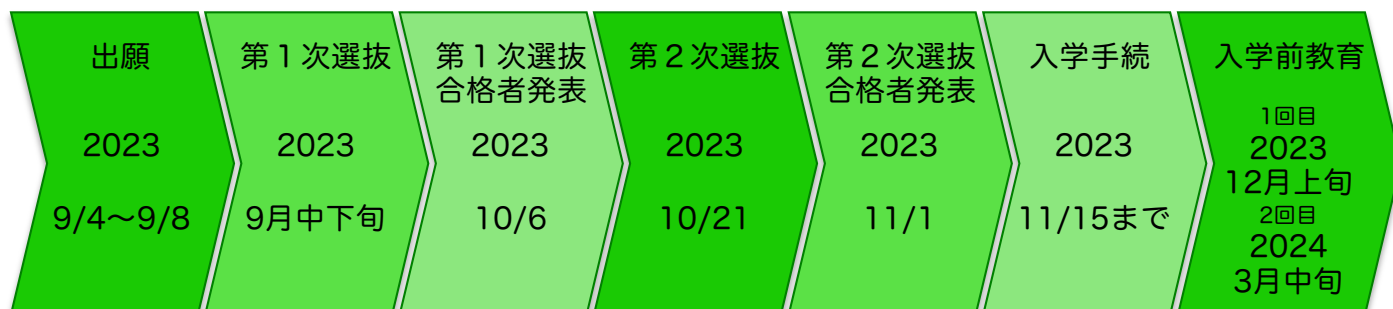
*優れた成果を出した、学会等で表彰された、研究能力が高い、コミュニケーション能力が高い、発表が優れている、信頼できる、博士課程に進学した等

そこで2023年度入試からはさらに拡充して、総合型選抜Ⅰの募集人員を30人にしています。

入試年度	募集人員	志願者数	第1次選抜合格者数	第2次選抜合格者数
2020年度	25人	79人	64人	25人
2021年度	25人	77人	63人	29人
2022年度	25人	54人	54人	32人
2023年度	30人	95人	68人	38人
2024年度	30人	—	※	—

※募集人員の2倍程度までを、第1次選抜合格者とする予定

●日程（予定）



第1次選抜のポイント

* 前回の総合型選抜Ⅰがどのように行われたかについて示したものです。
2024年度入試が同様に行われるということではありませんのでご注意ください。

願書類を以下の観点で審査して、第1次選抜の合格者を決定しました。

◎は必須 ○は任意

◎志望理由書（1,000字以内）

入学への意欲や熱意、志望理由とその根拠の明確性、文章の体裁などを評価しました。

◎入学までの勉学計画（400字以内）

勉学に取り組む態度、計画した理由と具体性や実現可能性、入学までの準備状況などを評価しました。

◎エッセイ（1,000字以内）（3つのテーマの中から1つを選択）

主体性や協働性、倫理観や社会的責任、柔軟で論理的な思考力や判断力などを評価しました。

<2023年度総合型選抜Ⅰ エッセイのテーマ>

「農学に関連する事象であなたにとって魅力的な関心事を教えてください。あなたの体験に基づいて、その魅力をアピールしてください。」

「あなたがこれまでに取り組んだ活動の内容や成果を述べてください。また、活動を通じて学んだことを大学生活にどのように生かしたいと考えていますか。」

「あなたが経験した事柄で、挫折、または失敗に直面したときのことを思い出してください。それはあなたにどのような影響を与え、そこから何を学びましたか。」

◎調査書

修学状況、学習成績の評定値を評価しました。

○活動報告

中学校卒業後に「**意欲的に取り組んだ活動**」や「**課題研究**」
(合わせて3件まで)

中学校卒業後に取得した「**資格・検定等**」
(英語は3件まで、それ以外は10件まで)

1) 意欲的に取り組んだ活動

文化活動、スポーツ活動、クラブ活動、生徒会・委員会活動、海外留学体験、ボランティア活動などの活動実績、活動の概要、期間、説明（努力、成果、貢献など）を評価しました。

2) 課題研究

課題研究のテーマ、概要、人数、期間、補足（受賞、役割など）を評価しました。

3) 資格・検定等

英語に関するもの、英語以外に関するもの。
資格・検定等の種類・内容、獲得したスコア・級などを評価しました。



2024年度総合型選抜Ⅰ
エッセイのテーマはこちら
(リンク先の学生募集要項P9)

第2次選抜のポイント

* 前回の総合型選抜Ⅰがどのように行われたかについて示したものです。
2024年度入試が同様に行われるということではありませんのでご注意ください。

第1次選抜の合格者に対して、
「授業理解力テスト」と「面接」を行いました。

◎授業理解力テスト（配点100点）

農学部教員による「おいしい食パンをつくるために」に関する講義（約40分）を行った後に、記述式テスト（約60分）を行いました。講義の際には講義ノートが配布され、講義を聴きながら必要に応じて書き込むことができました。この講義ノートは、記述式テストに持ち込み可としました。

講義の内容をどれだけの確に理解しているか、理解した内容や自分の考えを文章としての確に表現できているかなどを評価しました。

講義ノートは記述式テストの後で回収しましたが、評価はしませんでした。

◎面接（配点100点）

3人の農学部教員による、受験者1人あたり15分の個人面接を行いました。

- ・面接に先立ち、前室で提示された4つの設問から1つを選択し、それについての考えを10分間でまとめてもらいました。その後面接室に移動し、発表してもらいました（約3分）。
- ・引き続き、志望理由や動機、科学的な興味や関心などについて、質疑応答を行いました（約10分）。

志望動機や勉学意欲、科学的な基礎知識、論理的な思考力、自分の考えを言葉にしているの確に伝えることができているかなどを評価しました。

<面接課題の例（4つの設問から1つを選択）>

1. ヒトゲノムの解明で得られたデータは、病気の診断や治療、新薬の開発につながる情報源として期待されています。あなたはこのデータがどのように利用されるべきだと考えますか？
2. 生物多様性は、なぜ保全する必要があるのでしょうか？ 保全することによってどのようなメリットとデメリットがあるとあなたは考えますか？
3. 人間の活動によって生成または増加した、人の健康にリスクがある物質について、どのように管理することが望ましいと考えますか？
4. 無農薬栽培のメリットとデメリットについて、生産者と消費者それぞれの立場から、あなたはどのように考えますか？

NEW

香川大学農学部 総合オンライン説明会

香川大学農学部では、初めての試みとして、総合型選抜Ⅰに特化したオンライン説明会を7月に2回実施します。

<第1回> 7月9日（日）15時～

<第2回> 7月30日（日）15時～

参加を希望される方は、右のQRコードから事前登録をお願いします。

* 事前登録の際に、当日聞きたい質問を書きいただければ、可能な範囲でお答えします。

* 当日は、実際に総合Ⅰで合格した在学生から直接アドバイスがもらえる予定です。

<対象>
生徒 保護者
高校教諭の皆さま



総合型選抜I合格者 入学前教育について

農学部で開講される科目を学ぶ上で特に重要なのは生物と化学です。さらに、海外での研究を知り、国際学会や国際誌で成果を発表する上で、英語力もとても重要です。

一方で、共通テストを課さない総合型選抜Iで合格した入学者には、大学での講義についていけるかどうか不安を抱える学生も少なくないようです。

香川大学農学部では、総合型選抜I合格者に対して、12月と3月に入学前教育を行っています。

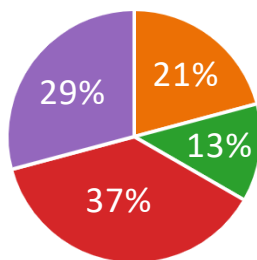
2023年度入試合格者に対しては、第1回の入学前教育の際に生物、化学、英語の課題を出し、大学での講義へのスムーズな導入に向けてサポートしました。また、グループワーク形式で英語学習の必要性について話し合い、発表してもらいました。その後、入学までの間にどのような英語学習を行えばよいかについて意見交換しました。

第2回では、課題についての講評と解説を行った後で、第1次選抜の際に提出された「入学までの勉強計画」に関する取り組み内容について、グループワーク形式で意見交換・発表してもらいました。

2023年度に総合型選抜Iで入学した新入生へのアンケート結果

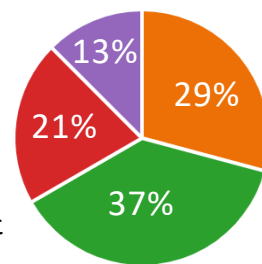
Question: 共通テストを課さない総合型選抜Iで入学することで、大学での講義についていけないかもしれない等の不安はありましたか？

- 全く不安がなかった
- ごくわずかに不安があった
- 少し不安があった
- ある程度不安があった
- 大いに不安があった



Question: その不安は部分的にでも、入学前教育で解消（緩和）されましたか？

- 完全に解消（緩和）された
- ある程度解消（緩和）された
- 少し解消（緩和）された
- ごくわずかに解消（緩和）された
- 全く解消（緩和）されなかった



Question: 現在、修学上で苦労していること、不安なことはありますか？

- ・英語のリスニングに自信がないので、講義についていけるか心配です。
- ・英語と化学の学力面。
- ・周りとの学力の差。
- ・特になし。強いて挙げるなら基礎知識が少し抜けているところ。
- ・他の人に比べて高校時代での化学や生物の勉強時間は少ないので、ついていけるかが心配。
- ・英語のTOEIC勉強は苦戦していますが生物などの科目は心配ありません。
- ・専門的な勉強についていけるか心配。
- ・7月にあるTOEICの受検に不安がある。
- ・一人暮らしで家事と大学の両立がしんどい。
- ・やはり二次試験まで勉強し続けてきた人たちとは基礎知識の定着レベルが違うと感じられることがあるのが心配です。
- ・英語についていけるか不安。
- ・英語が苦手なので今後ついていけるか不安。
- ・テストで単位を落とさずに取れるか不安。
- ・英語
- ・英語の単位
- ・特になし。
- ・今のところ特になし。
- ・英語の単位が取れるかとても不安です。
- ・特にありません。

総合型選抜Ⅰ 1期生（2019年度入学生）の進路状況

前ページのアンケート結果が示す通り、総合型選抜Ⅰ合格者のほとんどが、入学後に大学での講義についていけるかどうか不安を抱いて入学してきます。

受験を考えている本人だけでなく、送り出す側の保護者・高校教諭の皆様におかれましても、同様の懸念をお持ちなのかもしれません。

では、総合型選抜Ⅰで合格した先輩たちは、大学に入ってからどのように過ごしたのでしょうか？

現在の総合型選抜Ⅰに入試制度が変わってから最初の学生たち（2019年度入学生）が、2023年3月に卒業しました。その進路状況を示したものが下の表になります。

総合型選抜Ⅰ 2019年入学ー2023年卒業		26名	100 %
大学院進学		13名	50.0 %
就職	公務員	2名	7.7 %
	農林漁業・建設業	3名	11.5 %
	製造業	3名	11.5 %
	学術研究・教育	2名	7.7 %
	金融・不動産業	2名	7.7 %
	サービス業	1名	3.8 %

ポイント1 「大学院進学者が多い」

大学院とは、専門分野について学部よりさらに深く学び研究するための教育・研究機関です。研究・開発・技術職に就く割合は、学部卒の場合20%程度なのに対し、大学院修士課程修了者では50%を超えます。

2023年3月卒業生（総合Ⅰ）26名のうち、半数の13名が大学院修士課程に進学しました。内訳は、12名（46.2%）が香川大学大学院農学研究科、1名が他大学大学院でした。

2019年度入学生全体（総合Ⅰ以外の入試区分での合格者を含む）における香川大学大学院農学研究科への進学者の割合は40.6%でしたので、総合Ⅰ合格者には、大学院でより深く学びたい、もっと研究がしたいという**意欲的な学生**が他の入試区分よりやや多かったのかもしれません。

ポイント2 「大学入学後の勉強を頑張っている」

香川大学大学院農学研究科には3タイプの入試があります。そのうち、特別選抜（自己推薦方式）を受験できるのは、「3年次の3月31日時点で卒業要件単位のうち100単位以上を取得しており、かつ優以上が60単位以上の者」です。つまり、大学で一定以上の優秀な成績をおさめていないと受験資格がありません。

2023年3月卒業生（総合Ⅰ）で香川大学大学院農学研究科に進学した12名のうち、8名はこの特別選抜で合格しています。さらにそのうちの4名は専門高校（農業高校など、普通科ではない高校）からの入学者でした。

前ページのアンケート結果のように、学業面で不安を抱えながらも入学した先輩たちが、きちんと**大学での学習で結果を残している**のは特筆すべきことと言えます。

ポイント3 「就職先は多岐にわたる」

2023年3月卒業生（総合Ⅰ）の、就職希望者に対する内定者の割合は100%でした。「農学部＝農業」という認識をお持ちの方が多いかもかもしれませんが、**実際の就職先は多彩**です。

主な就職先は以下の通りでした。

農林水産省、県立高校（広島）、ハウス食品、大王製紙、JA岡山中央会、百十四銀行など

総合型選抜 | で入学した先輩達の声

高校時代のこだわりが、大学生生活を豊かなものにしてくれる

高校入学時から大学進学を考え、勉強、部活動、課外活動等の活動軸を大切にしてきました。勉強では、定期テストや模擬試験で結果を残すことを意識し、早朝補習も欠席しませんでした。部活動では空手道部に所属、高校時代に初段、四国大会や全国大会に出場、3年次にはキャプテンを務めました。課外活動ではドイツへの海外留学に参加し、ヒト型二足歩行ロボットのプログラミングについて発表してきました。大学院修士課程1年になった今、さらに研究を進めるためにトビタテ！留学JAPANの奨学金制度に応募し、イタリア・トリノ大学への留学に向けて取り組んでいます。先生方や研究室のメンバーに書類審査や面接に向けたサポートをしていただきながら、目標に向かって努めています。思い返せば、高校時代には全力で多様な取り組みに向き合う自分がいて、それこそが今の原動力になっていると思います。

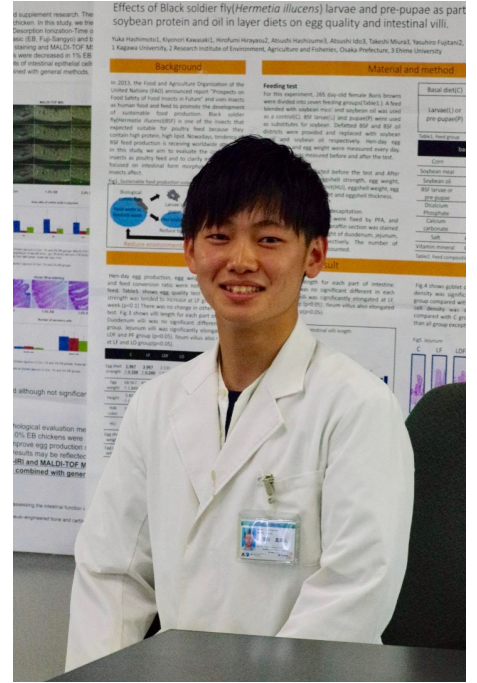
高校での手厚い指導は、内面に埋もれた個性を引き出してくれた

総合型選抜では、高校で学んだ知識や技能を活用し、入学後の目的を表現することが求められるため、実習や資格試験など専門高校の経験が生かしやすいです。母校の徳島県立徳島科学技術高校では、大学受験を希望する生徒1人ひとりに合わせた受験指導が手厚かったです。担任の先生は、農学部を受験する私のために農業の専門書を用意してくださいました。また、香川大学の公開講座の参加を薦めてくれたのも担任の先生でした。3年次になると、専門教科の先生方が毎日毎晩遅くまで必要な科目や課題、面接など手厚くご指導くださいました。志望理由書の作成の際には、1か月以上かけて文章の書き方から教えてください、3分スピーチ練習や農業記事を基にした面接では、複数の教員が協力してくれました。個人的には、早い時期から自分に向き合い、適切に表現できる文章力を身に着けたことが良かったと思います。

富田 真輝人 さん 2019年度入学

徳島県立科学技術高等学校 出身

大学院修士課程 1年



奥田 拓海 さん 2020年度入学

京都府立木津高等学校 出身

農学部 4年



高大連携ワークショップに参加、協働的な学びの重要性を知った

農業高校に在学中、教育学部の大学生と共に茶葉を身近に感じるワークショップに参加、農業の面白さを大学生と共に子どもたちに伝える協働的な学びの面白さを知りました。この経験を活かし、日本学校農業クラブに参加し、農業に関するプロジェクト発表で全国大会を目指した経験から、大学進学することに決めました。入学当初は物理、化学、英語の学修に時間を要しましたが、受講した科目の授業理解には問題を感じていません。現在は、果樹の研究室でキウイの新しい栽培法の研究をしており、農業高校の教員を目指しています。様々な研究室を訪問できる環境に満足しています。

入学後を考え常に自学自習、高校教員の励ましにより今がある！

入学後を意識して毎朝1時間以上早く通学し、放課後も含め2時間以上学習すると決め真剣に取り組みました。日々の努力は高校の先生に伝わり、化学や生物の苦手克服にも協力してもらえました。高校3年生の5月頃、香川大学の総合型選抜で受験できることを知りました。身についた習慣のおかげで、6月下旬～8月までは放課後2時間、週に2～3回、小論文の書き方や物事の捉え方を深く学ぶ時間で集中して取り組みました。課題面接への対策は、高校の先生と農業の記事を読むことから始め、2か月ほどで自分なりの意見を明確に話せるようになりました。個別面接への対策は特に行いませんでしたが、面接対策に費やした時間は、農業について深く知ることが出来た時間だったと感謝しています。近頃では、卒業後に香川県内の農業高校の教員として働きたいと思うようになりました。

高校での経験が今の私を形作っている

高校に入学した時から大学進学を頭に入れて、勉強・部活ともに力を入れてきました。高校2年の時、大学で開催されたタンパク質結晶化実験やマウス自動能の観察実験に参加しました。これが自分の中で一番印象に残っており、経験してよかったと思うことです。生物担当の先生から紹介を受け、参加を決意しました。高校ではできないことを実際に経験でき、知らないことを知れるという面白さを感じました。この経験から、将来研究・開発職に携わりたいと考えるようになりました。入学当初は一般入試で入った学生と比べると成績はいいと感じていませんでしたが、専門科目が増えていくにつれて興味・関心が高い科目を受けられることがモチベーションにつながっています。

黒瀬 日奈子さん 2021年度入学

愛媛県立三島高等学校 出身

農学部 3年



総合型選抜で身につけた力は無駄になることはない

総合型選抜では他の入試方法とは異なり、自分の知識・知見に加えて自分の意見を相手にわかりやすく伝えることが大事になってきます。私は総合型選抜を受けると決めた時点では世の中の科学ニュースや注目されていることなどについてほとんど知識がありませんでした。そのため先生からトピックをいただいて勉強したり、自分でネット検索や論文検索したりして勉強し、少しずつ知識を広げていきました。総合型選抜のためにつけた力が無駄であったと感じることはなく、逆に総合型選抜で受験してよかったと感じています。面接では先生方が夜遅くまで付き合ってください、手厚いサポートをしてくださいました。入試本番の面接で自分の意見をはっきり伝えられるかは、練習にどれだけ本気で取り組むかで変わってくると思います。初めは緊張して話せなくても練習を重ねるごとに必ず成果は現れ、必要な能力が身に付きます。私としては科学的知見が深まり、人前で話すことにも慣れたので結果的にさらに力をつけることが出来たと思います。

伊澤 響子さん 2023年度入学

大手前高松高等学校 出身

農学部 1年



学外プログラムの参加体験は

科学の楽しさと進学意欲を高めてくれた

高校1年生から放課後に自習室を活用し基礎学力の向上に努めていました。検定試験の勉強を行っている際には、高校教員のサポートのお陰もあり、第一次選抜前には英検2級を取得できていました。高校2年生の夏からは、「将来グローバルに活躍し得る次世代の傑出した科学技術人材」を選出するグローバルサイエンスキャンパス（JST）に応募してはどうかとお声掛けを頂き、幸いにして参加する機会を得ました。このプログラムは、科学に関する様々な講義を受講できるだけでなく、英語論文の抄読や実験の進め方等、学究の徒として生き残るスキルを学べる場でもありました。この経験を担任の先生や進路指導の先生と情報共有できたことで、総合型選抜の志望理由書の作成や面接対策に繋がったと感じています。今も変わらぬ気持ちで過ごせるのは、自律性を尊重し、いつも支えてくれた担任の先生や進路指導の先生のお陰と感謝しています。

コミュニケーションツールをフル活用！

入試対策でも驚きの効果を発揮

農学に関わるニュースを読み、倫理感や社会的課題に目をむけるよう知識を集約し、課題面接の参考にしました。特にエッセイでは、農業について取り上げたので、面接対策として農業に関する本に目を通し、農学部教授の論文を精読することにもチャレンジしてみました。志望理由書の推敲や面接練習は、担任の先生や進路指導の先生とロイロノートというチームコミュニケーションツールを通じて、エッセイ文書データ等を共有して対策しました。具体的な活動は夏休みから始めましたが、出願締め切り直前まで添削してもらえたお陰で、文法的な間違いだけでなく、農学の視点を持つ教員から内容指導に至るまで、自分では気づけない点を指摘してもらえて大変助かりました。課題面接と通常面接への対策では、過去問を使った対策を通じて、不足している視点を認識できました。特に役立った点は、課題面接の対策として独自に作ってくださった模擬試験のお陰だと思っています。志望理由書とセットにした質問対策は、類似質問に対して臆することなく質疑応答できました。最新機器を用いた手厚いサポートによって、入試本番でも万全の対策で挑むことが出来ただけでなく、入学後の授業登録やPC必携化にもいち早く対応できており、高校時代の経験が活かされています。

総合型選抜Ⅰで入学した先輩達*にアンケートしました

Question 1 第2次選抜の対策を具体的に教えてください

*2019年度～2023年度入学者
()は出身高校等

- 授業理解力テストは、YouTube上の大学の講義の映像を見てメモを取ったり、講義の内容を文章でまとめたりした。面接は面接ノートを作成した。毎日放課後に色々な先生に面接練習を行なってもらった。(高松西)
- 授業理解力テストの対策では、YouTube上に投稿されている講義動画を見てメモを作成し、講義の概要を高校の先生に説明するというを行った。また、入試レポート等を参考にしながら実際の形式に近づけて面接を行った。(大手前高松)
- 授業理解力テストについては過去問を解いてみて問題の出し方の対策をしました。面接については担任や生物の先生と行いました。(香川県立三木)
- YouTubeで大学の講義を視聴しノートをまとめる。先生との面接練習。環境問題について3分でプレゼン練習。(西彼杵)
- 総合Iガイドは少なくとも100回は読みました。先生に用意して頂いたNHKスペシャルの「人体」シリーズの動画を見て、要点をまとめる練習をしたり、興味のある研究を自分の言葉で説明できるようにしました。(香川県立三木)
- 授業理解力テストは楽しんで受けること、メモをたくさん取ること、化学生物の教科書・参考書の基本問題を解けるようにすること。(伊丹)
- 担任の先生に協力してもらい、農学に関するYouTubeの動画から問題を作ってもらい、採点してもらおう。(八幡浜)
- 実際に面接で聞かれることを予測して、いくつも質問に対する答えを考えた。基礎的な化学、生物の知識を身につけた。授業ノートのまとめ方を改めた。伝わりやすい話し方を面接練習で探した。臨機応変に答えられるように色々な先生と何度も面接練習した。(川之江)
- 授業理解力テスト対策では、高校で生物と化学を履修していなかったため、高校で学ぶ範囲を自学自習で補った。面接対策では特に課題面接(農学部に関連分野)の練習に励んだ。(木津)
- 高校の先生による面接練習。生物を履修していなかったため、生物の教科書を友人に借りて勉強した。(高松商業)
- 過去問を解いたり、とにかく調べて2冊にわたるノートにすべてまとめ、インプットした。面接練習は、過去の傾向を見ながら、ひたすら繰り返し生物の先生や担任の先生と練習した。課題面接は、過去の問題は全て答えられるようにして、傾向を見て自分で予想問題をつくった。その予想した問題で、時間をきっちり計りながら練習した。(今治北)
- 授業理解力テストは、聞いて理解する習慣をつけていたら問題ない。面接は、何を聞かれているのかを意識して答える習慣をつけておくといいと思う。(宝塚)
- 面接練習は、担任の先生や生物の先生だけでなく、もともと研究者であった先生にもやってもらえた。(玉島(県立))
- 生物科学分野のニュースをよく見て、疑問に思ったことを調べることで情報収集する。またそのニュースを多面的に分析する。あまり縁がなかった先生との面接練習で緊張感に慣れる。(下伊那農業)
- 高校の先生が用意した5つくらいの課題から1つ選んで自分の考えを述べる課題面接と、通常面接の練習。(高松北)
- 授業理解力テストがどのようなものか分からなかったため、NHK理科教育番組を見てメモをして、先生の質問に答えるという対策を行った。1人の先生ではなく、何人かの先生に頼んで面接を行った。(西条農業)
- 集団で面接練習をしたことで、面接官側からの視点も経験できた。(八幡)
- 先輩方のレポートを元に、志望理由と科学ニュースの面接練習。先生にスピーチのテーマを予想してもらい、関連情報を調べた後、実践練習した。(東播磨)
- 過去に同じように総合Iを受けた先輩方が聞かれた質問や内容を見て、それに伴って対策した。(明誠学院)
- 農業関連の模擬授業を受け、そのテストを解く。高校の先生に問題製作と授業をしてもらった。(徳島科学技術)
- 農業高校出身なので自分の課題研究について深掘りされてもいいように練習した。(但馬農業)
- 自分の考えを明確に持っておく。整理しておく。(高松西)
- 面接は、高校の先生と数多くしていた。(北桑田)
- 高校の先生が用意してくれたNHKシリーズ人体を視聴して要約の練習。(香川県立三木)
- 資料集を読み込む。憧れの教授がどのような研究をされているかの情報収集。(岡山芳泉)
- 課題面接対策として、私大や他の国立大の過去の小論文の問題に対して3分間で回答する。(静岡雙葉中学校・高等学校)

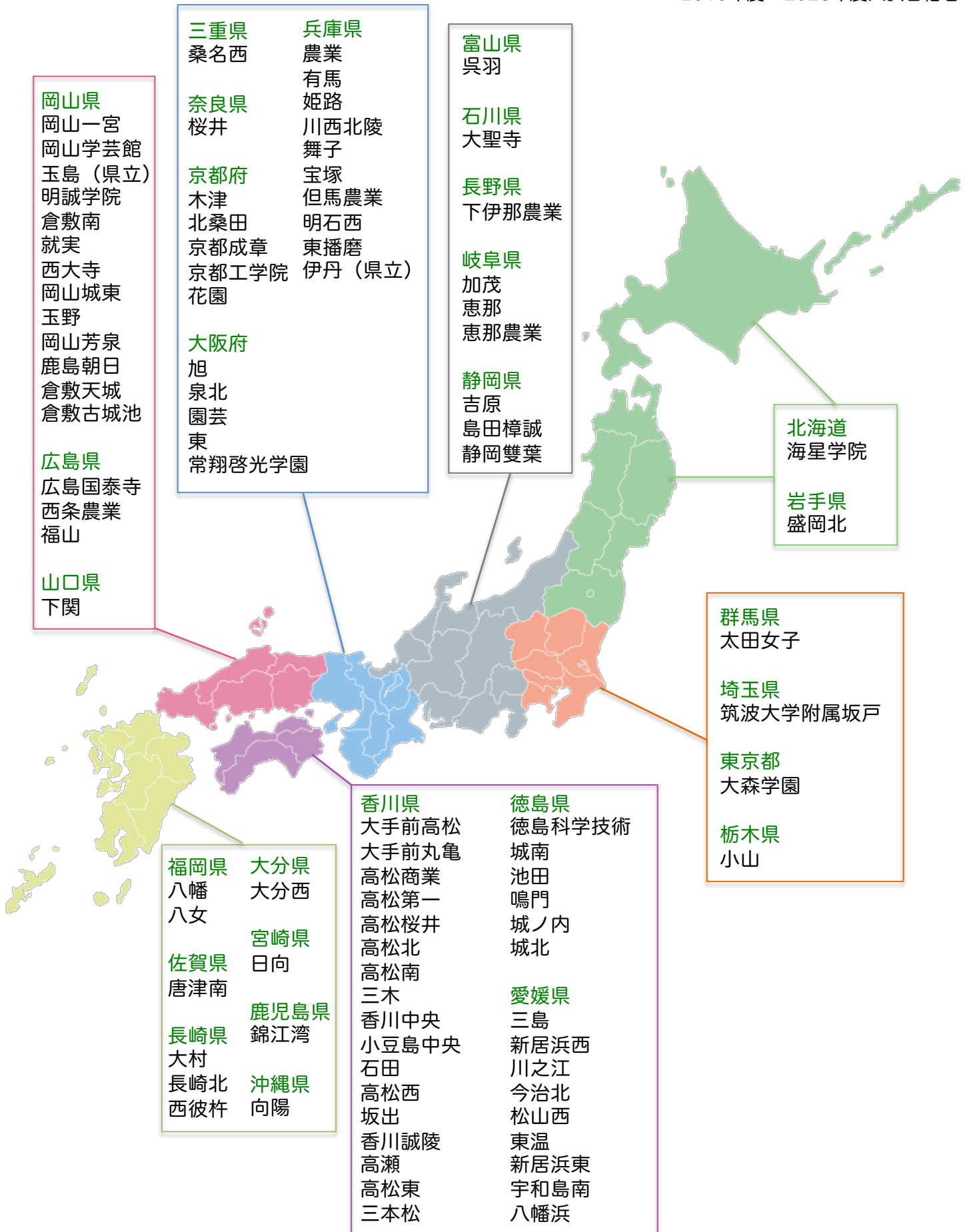
Question 2 総合型選抜Ⅰを受験する後輩へのメッセージ

- 香川大学の総合型選抜は他の受験生よりも早い時期にあるので、周りとの温度差や共通テスト勉強との並行でしんどくなることもあると思いますが、このつらい時期にどれだけ頑張れるかが合否に繋がると私は思っています。こんなこと、どこの受験HPにも書いてあると思いますが事実です。私は8、9、10月は睡眠時間以外、もちろんお風呂もご飯の時間もずっとペンをもって調べものをしていました。どうしても香川大学に入学したかったからです。今これを読んでいる受験生のみなさんも私と同じような志を持った方だと思います。自分が知らないことはないと言い切れるまで勉強してください。いま得た知識は大学に入った後でも無駄になることは決してありませんから。私が保証します。私のこの短い文章でも皆さんの背中を押せていたらうれしい限りです。みなさんが香川大学に入学できること心から楽しみにしています。(京都成章)
- 私は勉強がとても苦手です。ですが、自分のしたいことに対しては積極的に取り組める自信があります。頭が良くないからと諦めるのではなく、自分のしたいことに対して貪欲に取り組み、挑戦して行ってほしいです。頑張ってください。大学で待っています。(香川県立三木)
- この大学で学びたい!という気持ちが強かったりすると、選択肢の一つにしてもいいのではないのでしょうか。本番でもしっかりといえるように、面接練習はたくさんしておくことをお勧めします。(岡山一宮)
- きちんと対策をしたら自信が持てるので頑張ってください。(大阪府立園芸)
- 自分の熱い思いをいかに伝えるかが勝負なので、全力で頑張ってください。(高松桜井)
- 具体的な実績や経験が何よりも武器になる。(花園)
- 一次試験を乗り越えることができれば、二次試験は気合いの大きさと決まる。授業理解度テストは今までの授業で一番集中して、面接ではある程度の緊張感を持ちつつ、今までの努力を信じて。(常翔啓光学園)
- 一般選抜で入った学生となら変わりなく楽しく過ごせています。あなた独自の経験、熱意というのが重要な鍵になります。頑張ってください!(京都工学院)

- 自分のやりたいことに関する本などを読んでおくべきだと思います。また、自分についての分析をしておくことも大切です。あとは、熱意を伝えられるようにすると思います。頑張ってください。(沖縄県立向陽)
- 面接は練習の成果、自分の自信が全て出るので、自信を持って面接に臨めるようにできることが大事。(大手前丸亀)
- 一次の結果が出てから二次試験の日まであまり時間がないので事前に情報や考えをノートなどにまとめておくべきだと思います。面接練習は当日に緊張しないためというよりはアドバイスをもらうためにするものなのかなと私は思いました。たくさん練習しておいて損はないと思います。総合型選抜を受けるかどうかはできるだけ早く決めておいたほうがいいです。なぜほかの大学ではなく香川大学を選んだのかをしっかりと伝えるようにしていくことが大切だと思います。(香川県立三木)
- もし落ちてしまってもまだまだチャンスはあるから、自分のやりたい勉強ができそうならチャレンジしてみるといいと思います。まだ高校で普通に授業をしている期間に受験対策をするので忙しいと思いますが、志望理由書等は計画的にやる方が絶対いいです！(大阪府立東)
- 第1次選抜での書類作成が第2次選抜での面接に影響するので、十分に内容を練ったほうがよいと思います。また、授業理解度テストでは基本的な高校化学・高校生物の内容が必要になります。このテストでは時間内に文章でまとめる必要があるので、文章力に自信がない人は対策する必要があると思います。(大手前高松)
- 総合型選抜Iの受験対策は今後においても役立つので、香川大学に入学したい気持ちがあれば大丈夫だと思います。頑張ってください！(高松西)
- 対策はすればするほど自信が上がります。自分を信じて頑張ってください。(西条農業)
- 自分の特有の経験に自信を持つことは面接、自己PRの強みにも繋がるため、何事も大切にしておく。また、専門的な知識を用いて他よりも応用的な学習が得意だと、入学後も問題なく講義を楽しむことが出来る。(徳島県立城南)
- この入試では在学中の高校の偏差値などは一切関係ありません。偏差値が40程度の高校からの合格者もいれば、高い偏差値の高校でも不合格になる人がいます。学力ではなく、人間性や関心を持っているかを見る入試なので、勉強に自信がなくても挑戦してみてください。(木津)
- 授業理解力テストでの講義の内容が、試験とかそういうのは一旦置いておいて、とても面白かったのでも是非受けて欲しい。(倉敷天城)
- 学力以外の部分で自分の魅力を発揮できるように、日頃から自分が進みたい分野のことにしっかりと勉強すること！(明誠学院)
- 面接は練習量がものを言う。(徳島科学技術)
- どうして香川大学がいいのかを考えて、熱意を持って受験すること。その熱意をきちんと伝えることが出来るように対策を取る事が大切。(岡山芳泉)
- 高校の先生との面接練習は必ずしておいた方がいい。1人ではなく何人かの先生にお願いして行く方が良い。(高松北)
- 面接ではかなり深い所まで聞かれるので、志望理由にも、気になる科学ニュースにも、自分の意見がないと対応できないと思います。あとは自信を持つのみ！自分のやってきたこと、これからやりたいことをイメージして、アピールしていきましょう。謙遜は不要です！それぞれの力が発揮できることを祈ります。(東播磨)
- 模試でE判定でした。しかしAO入試で受かりました。現在、修学上困っていることは特にありません。諦めないでください。(宝塚)
- 面接練習はとにかく一人でも多くの先生に指導して頂くことをお勧めします。頑張ってください。(高松商業)
- 早めの準備が大切です。是非、高校の進路指導室を利用したり、先生にお願いして対策に取り組んでください。(就実)
- 自分のやりたいこと、好きなことで勝負できるのでとてもいい入試方法だと思います。ですが、それは他の子と同じ条件なので、他の子よりたくさん知識を増やし、他の子の何倍も面接練習や授業理解力テストの対策をしないと受からないと思います。気を抜かずに悔いのないよう、しっかりと頑張ってください。それと、合格したあとは、高校までの基礎はちゃんと固めておいた方がいいと思います。(香川中央)
- 授業理解力テストは板書を早く書きとって、講師の話す内容の大事だと思えるところも書き留めると良いと思います。頑張ってください。(日向)
- 提出書類の準備ははやくから始めるべきである。(高松北)
- 日々のコミュニケーションを大切にしたい方がいい。(徳島科学技術)
- 面接ということもあり、緊張することも多いと思いますが、自分が何をしたいのか、どうしてここに入りたいのかなど、自分の意志をしっかりと持ち、伝えることが大事です。面接練習を重ねて、自分を見つめ直し、自分の意思を強く持って望んでください。(三島)
- 面接は不安が無くなるまで何度も先生を変えて練習しよう。授業理解力テストはしっかりとノートを取ろう。(新居浜東)
- 自信を持ってアピールすることが重要だと思います。がんばってください。(八幡)
- 自分の武器を精一杯アピールすることが大事だと思う。(高松東)
- 自分のしたいことを積極的にアピールしよう。(岡山一宮)
- 生物だけでなく、化学、時間があれば物理に目を通しておくとも今後楽になります。英語はTOEICをスキマ時間にやり続けるといいです。(玉島(県立))
- 可能性はゼロじゃないです。意欲とやる気と勇気で自分の将来への第一歩を踏み出してください。(川之江)
- 自分の好きな教科で勝負しに来てるのだから、面接や授業もどんなトピックが出るのだろう?!と楽しんで挑んでみてください。(岡山学芸館)
- 勉強は大学に入ってからもなにもありません。まずはスタートラインに立つことを目標に頑張ってください！(恵那農業)
- 高校の先生との面接練習は必ずやったほうがいい。担任と副担任の先生はもちろん、志望校で必要になる教科の先生など出来るだけ多くの先生にお願いしたい方がいい。(高松北)

香川大学農学部 総合型選抜 | 合格者出身校

* 2019年度～2023年度入試合格者



* 2019年度～2023年度総合型選抜|合格者の出身高等学校名です。(都道府県別 順不同)
 * 高等学校名は出願時の名称です。
 * 各学校名の後の「高等学校」「中等教育学校」等を省略しています。

お役立ちリンク集

<香川大学農学部をもっと知りたい方>

香川大学農学部ホームページ

教育、研究、社会貢献等の総合サイトです。



香川大学農学部受験生向け特設ページ

特に、受験生や保護者、高校教員の皆様向けの情報を集めています。



農学部公式Twitter

最新の情報を随時更新しています。



<受験を決める前に個別に相談したい方>

個別相談お申し込みフォーム

キャンパスライフや研究内容、入試制度など、様々なことに教職員が対応します。



<総合型選抜Iでの受験を決めた方>

2024年度 農学部総合型選抜Iの概要

* 出願の際には最新の情報をご確認ください。



2024年度 農学部総合型選抜I学生募集要項

* 出願の際には最新の情報をご確認ください。



<総合型選抜I以外の入試についても知りたい方>

農学部入試Navi

香川大学農学部では4つの方式（総合I、推薦II、前期、後期）で学生を募集しています。

